

## スポーツ科学センターの課題および他者との連携に関する研究

### -高知県スポーツ科学センターの事例-

1230557 山中 大河

指導教員 前田 和範

#### 研究背景

日本には、競技力向上を図るべく、日本スポーツ振興センターにハイパフォーマンススポーツセンター(HPSC)が設置されており、国内外のスポーツの強化に貢献している。HPSCは、全国的にネットワークを広げて行くため、全国の9機関を指定し、高知県スポーツ科学センター(高知県SSC)についてもその中の一つに選出された。しかし、スポーツ科学センターには、多くの課題が残されており、高知県SSCについて予備調査として認知度調査を行った際、「認知度不足」という課題が挙げられた。今後も各地域において、競技力向上を目指すためには、スポーツ科学センターにおける課題の解決は必要不可欠である。

#### 研究目的

本研究は、「競技力向上の観点から、全国のスポーツ科学センターの取り組みを調査・評価すること」、「高知県SSCの課題を明らかにすること」、「スポーツ科学センターの効果的な活用方法、理想的な地域連携方法を検討すること」を目的とした。

#### 調査・分析方法

全国のHPSC連携機関9団体について9項目の事柄について文献調査を試み、不明な部分については、電話でインタビューを通じて内容の整理を行なった。また、高知県SSCの課題や予算などについて高知県SSCの職員にインタビュー調査を実施した。

#### 分析結果

各団体の比較を行なった結果、外部との連携をとっていることやスタッフ数、測定できる項目数が最多であることから最も特徴的なHPSC連携機関は、横浜市スポーツ医科学センターであった。また、インタビューの結果、高知県SSCの課題は、「人材不足」、「情報共有」、「強化と普及のバランス」の大きく3つ示された。外部の連携についても、検討されているが、測定費用などの金銭面が折り合わず、まだ利用には至っていないという結果になった。

#### 考察・結論

これらの結果から、高知県SSCは、横浜市スポーツ医科学センターを参考にしながら、体制を整えていくことが有効だと考えられる。トップスポーツの規模の違いなど、県内のスポーツ環境に違いがあるものの、高知県SSCもスポーツチームなどと連携を図り、運営していくことが重要だと考えられる。